

| | | | | |
|------------|----------------------------|------------|------|-----------------|
| 5-4 | | | | |
| 主題 | 歩行能力維持向上に対するリハビリマシン導入とその結果 | | | |
| 副題 | 特養における歩行能力維持向上の継続した取り組み | | | |
| キーワード 1 | パワリハ | キーワード 2 | 歩行練習 | 研究(実践)期間 3か月 |

| | | | | |
|-----------|--------------------------|--|--|--|
| 法人名・事業所名 | 社福) 同胞互助会 特別養護老人ホーム 愛全園 | | | |
| 発表者(職種) | 菊池秀樹(介護職員)、大村聖路(機能訓練指導員) | | | |
| 共同研究(実践)者 | 岸波健助(機能訓練指導員) | | | |

| | | | |
|-----|--------------|-------|--------------|
| 電 話 | 042-541-3100 | F A X | 042-546-8284 |
|-----|--------------|-------|--------------|

| | |
|-------|--|
| 事業所紹介 | <p>社会福祉法人同胞互助会を母体とし、ショートステイを含めた特別養護老人ホームです。定員は特養 110 名、ショートステイ 22 名です。医療、看護、介護、栄養、機能訓練が充実した施設です。ほぼ毎日クラブ活動、行事が行われ、ボランティア、アクティビティ活動が盛んに実施されています。</p> |
|-------|--|

| |
|--|
| <p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>当施設では、利用者の転倒予防・歩行能力維持向上の為、日中活動量増加を目指し一昨年より歩行練習と脳機能訓練を組み合わせた取り組みを実施している。取り組みを継続していく中、施設内移動が歩行自立、見守りにて可能だった参加者の内、歩行能力を維持できている利用者と施設内移動に車イスを必要とする利用者へ歩行能力に差が出始めてきた。利用者毎の活動参加率に着目すると、歩行能力低下を起こしている方は徐々に歩行練習への参加率が低下していることが分かった。参加率減少の理由として、歩行能力低下による参加意欲低下や介助者の負担増が原因と考えられた。参加率を維持し歩行能力維持する為にさらなる歩行能力維持向上の取り組みが必要となった。</p> <p>今回、一昨年より継続している歩行練習に加えリハビリマシンを導入することで利用者の歩行能力や活動への参加意欲がどのように変化するか検討した。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>歩行能力維持改善目的に、歩行練習に加えリハビリマシントレーニング(リカンベントバイク・レッグプレス・レッグエクステンション)を実施。利用者の歩行スピード・立位バランス能力・歩幅・下肢筋力がどの程度向上するか検討する。又、歩行練習参加率や日中活動への参加意欲など変化があるか検討する。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設居住フロア内移動自立レベルの利用者でフロア内歩行練習及びリハビリマシン訓練に参加され、実施期間中健康状態に変化がなかった 7 名 <p>実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日午前中の決められた時間に 10 人前後の集団で行うフロア内歩行練習を実施。又、曜日毎に 3 |
|--|

～4名、週3回リハビリスペースにて個別リハビリマシンメニューを実施。

歩行練習およびリハビリマシン訓練内容

・歩行練習

理学・作業療法士による歩行能力評価をもとに、利用者ごとに周回数を定め、フロア1周100メートルのコースを毎日同じ音楽（365歩のマーチ）を流し意識づけをし歩行練習を実施した。

・リハビリマシン訓練

理学・作業療法士による筋力・歩行能力評価、及び主観的運動強度（ボルグスケール）を指標とし、リカンベントバイク・レッグプレス・レッグエクステンションを組み入れた個別リハビリマシン訓練メニューを作成。リハビリスペースにて20分・週3回、機能訓練指導員による指導のもと実施した。

・歩行能力、行動変化の計測および検証方法

歩行練習の参加を記録用紙で集計。歩行能力評価として、歩行スピード（TUG）、立位バランス（BBS）・歩幅（2ステップ）・下肢筋力を今回の取り組みを実施する前のデータと実施開始してからのデータを比較検証した。行動の変化に関しては、今回の取り組みを実施する前と実施後のN式老年者用精神状態尺度について比較した。

《4. 取り組みの結果》

歩行練習参加率は参加者全員維持。歩行能力については、立位バランス・歩行スピードの向上がみられた。下肢筋力・歩幅については維持がみられた。N式老年者用精神状態尺度については関心意欲交流の面において向上がみられた。

参加者の行動変化として、訓練中の発語が開始時より増え訓練と一緒にされる方と談笑する時間が増えたり、お部屋で一人の時間を過ごされる時間が多かった方が訓練日以外もリハビリマシン使用を自ら希望されたりと、コミュニケーションや活動への意欲向上がみられた。又、訓練参加者以外の利用者からは「私もやってみたい」と参加を希望する声も聞かれた。

《5. 考察、まとめ》

従来の歩行練習にリハビリマシン訓練を組み入れた結果、参加者全員の歩行能力において維持や向上、歩行練習参加率の維持が確認された。歩行練習だけでは能力維持に足る活動量を確保できない可能性のあった利用者に対しリハビリマシン訓練を追加する事で、参加者全員の歩行能力の維持向上が図れたと考える。又、歩行能力低下から起こる意欲や気力低下を防ぐ事でコミュニケーションや参加意欲の向上も図れたと考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

1)大塚洋：「移動」での生活リハビリ 日常の看護・介護に「歩行」の要素を取り入れようコミュニティケア 12：17-21. 2014

《8. 提案と発信》

今後、特養における機能訓練についても、機能維持だけではなく機能向上や改善を目的とした取り組みがさらに必要になってくる。特養入所者にも適切な取り組みを行えば歩行能力維持改善が期待できるため、今回の取り組みが参考になればと願います。